

は想定内かもしれない。

ただ次から次へ対策は取り続けたいといけない。早速バーナンキ議長は 6000 億ドルを超える国債買入れを否定せず」と報じた。そのせいか、株価はなんとか持ちこたえ、長期金利もそれを見ながら上昇した。今週の米国債入札もあって金利は低下しない。

景気全体では米指標も良くなっているが、雇用と住宅は不安定だ（米国には一人で 1000 人分の給与をとる CEO が多すぎる）。雇用回復を狙いさらに米国は海外に積極的攻勢をかけるだろう。

韓国との FTA もそうだが人民元にも切り上げ圧力をかけてくるだろう。今週は金曜に米中の貿易収支の発表がある。

相場は全面円高とはならない。先週も週単位では豪ドル、NZ ドル、ランドに対しては円安であった。また週後半はユーロやスイスに対しても円安となった。資源価格も金が 1400 ドルののせたことや、工業資源の白金・パラジウムが急騰し資源通貨を支えている。

株価も中国株が金融引き締め観測で不安定な動きをしているが、他国は比較的安定している。全体として景気回復途上にあるので慌てて円を買う必要もないだろう。

円安ドル安の流れは消えていない。

日本の指標も多い。3Q GDP 二次速報は改善が予想されている。金曜日の法人企業景気予測調査で先行きの景気見通しをチェックしたい。豪、NZ、加、英の政策金利の発表があるが豪と加は政策金利を据え置いた。

NZ、英もそれぞれ据置となろう。豪は指標がやや冴えなくなっているがインフレ指数は高い。また明日は雇用統計の発表もある。

2. 需給「11 月上中旬貿易統計」

11 月に続き 12 月も輸出業者のドル売りが活発化しないのが円売りの要因である。年度初めに積極的に輸出予約をとり始め、晩秋から初冬は円を買う必要性が減少している。

さて先ほど最新の貿易統計（11月上中旬分）が発表された。輸出10%、輸入が8%増加している。

輸出 3.65兆円 (+10.8%) 輸入 3.61兆円 (+8.3%)、
差し引き黒字 43,449百万円（前年赤字 36,550百万円）

3. 「戻りの参考」

戻りはどこまでと考える。戻りは窓までとか空までとか言われるがいつも出てくるわけではないし、窓に戻るまでかなりの時間を要する。わりと頻繁に出てくる戻りの例を取り上げたい。

私はトレンドラインを利用している。上げでも下げでも戻る前に抜いたトレンドラインを戻りのレベルの参考にしている。たとえばドル円日足では11月23日、24日の上昇ラインを11月30日に下抜いてからはこのラインが上値抵抗となった。

またユーロドル月足では6月-9月の月足上昇ラインを先月末下抜いたが、今月の戻りも今のところそのラインまでとなっている。実用的だと思う。

4. トピック1「ドル円」

11月の上昇トレンドは一旦壊れたが。季節的な需給要因（2項参照）は12月も変わらず再び底堅くなろう。81-86を予想したい。

年足は陰線のまま。月足は11月に6月-9月の下降ラインを上抜けてドル円上昇トレンドは崩れていない。月足下降ラインのサポートは80.0あたりとなる。週足では11月8日-15日の上昇ラインを下抜いた。

11月1日-8日の週のサポートラインが81.50あたり、上は86.20が抵抗する。日足では11月1日-5日の長い上昇ラインを下に切った。上値抵抗はそのラインで83.90となる。

下は一目均衡表の上限の83.09となる。さらに下げれば雲の下限の81.64となる。5日

移動平均線は先週金曜に下げに転じた。ボリンジャーバンドは 81.09-84.88。

さらに短期では 11 月 23 日-24 日の上昇ラインを下に切っていたが、米雇用統計で出来た 12 月 2 日-3 日の下降ラインを昨日ブッシュ減税延長合意で今度は上抜き一目均衡表の雲の上にも出る事となった。

米国雇用統計前は 84 円 10-40 銭にまとまった売りがあったが執行されずじまいである。一部は雇用統計後に損切りで消化されただろうが、まだ潜在的な売りはそのあたりに残っている。

● 「ドル／円 (USD/JPY) 日足チャート」。

↓↓↓↓↓

(URL) <http://www.acefx.jp/images/report/101208-1.gif>

5. トピック 2 「ユーロドル」

ユーロ債券市場はやや落ち着いてきた。12%のギリシア金利は 11%後半へ、7%のポルトガル金利は 6%前半へ、9%半ばであったアイルランド金利は 8%前半となっている。

IMF・EU と英国のアイルランド向け融資が決定したからだ。先のギリシアショックでは、IMF・EU の支援が決定したのは 5 月 3 日であったが、ユーロが上昇し始めたのは 1 カ月後の 6 月であったのに比べると反応は速い。

もちろん米雇用統計の悪化があったのだが。一旦融資が決定すると債務国の国民生活は緊縮財政で厳しくなる。その為にストや暴動が起きる。また格付け会社が格下げをするのも協調融資の後の今頃となってくる。

ただ事態は改善方向へ進んでいるのでそれらが相場を再下落させることはないだろう。

ユーロドルは年足陰線、月足は 6 月-9 月の長い上昇ラインがあったが下抜いた。現在その上昇ラインまでリバウンドしてきている。先週の週足では下ヒゲでしぶとい。

日足はボリンジャーバンド下限から 3 連続陽線となったがそのラインは崩れ今度は 12 月 6 日-7 日の下降ラインに沿っている。5 日移動平均線は上昇に転じたが一目均衡表の

ホームページ <http://www.fx-365.jp/>

取引所為替証拠金取引「エース 365」（以下、本サービスといいます）を提供する者の名称はエース取引株式会社（登録番号：関東財務局長（金商）第 251 号）で、（社）金融先物取引業協会及び（社）日本商品投資販売業協会に加入している金融商品取引業者です。

- ・本サービスの最低取引単位（1 枚）は 1 万通貨または 10 万通貨単位（※1）です。売買手数料は、1 枚当たり片道税込 210 円～1,050 円（日計り決済時 105 円～630 円）、預託していただく証拠金の額は、1 枚あたり取引金額（想定元本）の 2%以上で、通貨ペアの種類により決まります。
- ・実際の取引金額は、証拠金の額に比して大きいため、少額の資金で大きなポジションを保有することが可能ですが、その損失の額が預託していただいた証拠金額を上回る可能性があります。
- ・証拠金に対する取引金額の比率は 50 倍以下です。また、日々の為替レートや証拠金額の変更等で異なります。
- ・ロスカットルールは、お客様の資産の損失拡大を防ぐためのルールですが、必ずしもお客様の損失を限定するものではありません。各国の政治、経済状況の変化及びそれに関連する金融市場の変化、金利相場、経済指標の数値の変動等により、急激な相場変動が起こった場合、預託した証拠金の損失、若しくは預託した証拠金を上回る損失となる可能性があります。
- ・当社が提示する各通貨ペアには売付けと買付けに価格差があり、またスワップポイントには支払いと受け取りがあります。
- ・スワップポイントは、各国の信用状況や金利情勢等により日々変動し、取引対象である通貨の金利変動により受け取りから支払いに転じることがあります。
- ・本サービスは、お客様から預託を受けた証拠金が当社に滞留する場合には、お客様の資産を安全に確保するため、三井住友銀行の信託保全サービス「クリアリングトラスト」を実施しておりますが、法令上要求される区分管理必要額算出日と追加信託期限に時間差等があることから、いかなる状況でも必ずお客様からお預りした証拠金等が全額返還されることを保証するものではありません。

上記リスクは、本サービスにおける主なリスクについて記載したのですが、これがすべてとは限りません。

ご契約の際は契約締結前交付書面を十分に熟読の上、リスクや取引の仕組み等の内容をよくご理解いただき、ご自身の判断と責任のうえお申込みください。

(※1) ランド／円、香港ドル／円、スウェーデン・クローナ／円、ノルウェー・クローネ／円の取引単位は10万通貨、それ以外の通貨ペアは1万通貨単位です。

お客さまのご相談連絡先：当社本社内／コンプライアンス部（電話：03-5485-4161）、
若しくは証券・金融商品あっせん相談センター（電話：0120-64-5005）をお願いいたします。

金融商品取引業者：関東財務局長（金商）第251号

（社）金融先物取引業協会会員（会員番号1307）

（社）日本商品投資販売業協会会員

取引所為替証拠金取引「エース365」（商標登録出願中）は、
エース取引株式会社のサービス名称です。

・お客様の個人情報は、当社の個人情報保護ポリシーに基づき、適切に管理させていただきます。

個人情報保護ポリシー：<http://www.fx-365.jp/privacy.html>

・電子メールの特性上、送信過程で内容欠落、送信遅延、ウィルスの混入その他の不都合が生じることがございます。これらにつきましてエース取引株式会社は責を負いかねますのでご了承下さい。また、エース取引株式会社は本メールの送信を監視する権限を持っています。

・当社に関するお問い合わせは下記URLよりお願いします。

<http://www.acekoeki.co.jp/contact/>
